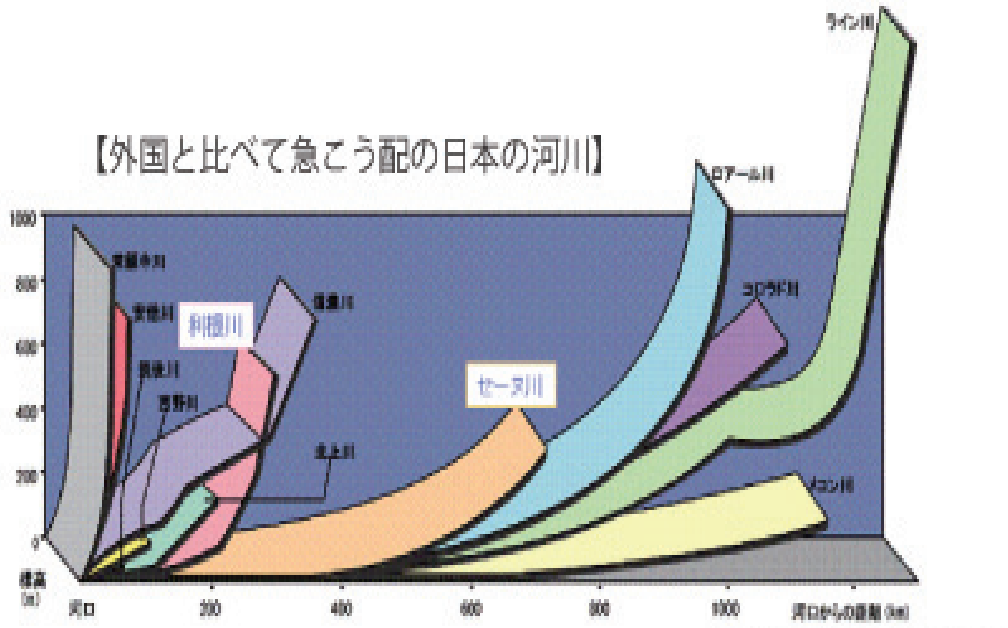
シリーズ「国土教育」

# 自然災害大国「日本」

地震、津波、火山噴火、洪水、土砂崩れなどの自然災害が頻発する国土の上で、日本人は暮らしています。とりわけ2014年は、2月の豪雪、8月豪雨による広島市の大規模土砂災害、たびたび上陸した大型台風、9月27日の御嶽山噴火など大規模な自然災害に見舞われた一年でした。年末・年始も、太平洋側の東京では晴天が続いた一方で、日本海側の各地は記録的な大雪に見舞われ、交通麻痺やライフライン切断など、甚大な被害が続発しました。



出典）国土交通省ホームページ

中学校社会科の地理的分野の新学習指導要領は「世界的視野から日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色を理解させるとともに、国内の地形や気候の特色、自然災害と防災への努力を取り上げ、日本の自然環境に関する特色を大観させる」などとしており、全ての中学生は、日本の国土の脆弱性（厳しい自然条件）と防災・減災対策に関する知識を教科書から習得できます。

検定教科書（教育出版、帝国書院、東京書籍、日本文教出版）は、いずれも本文8～12ページを割いて、日本の国土の特色や自然災害と防災・減災への取り組みを次のように説明しています。

◇世界には大地の不安定な地域と安定した地域があるが、日本は環太平洋造山帯に属し、地震や火山の多い不安定な大地上に位置している。

◇日本の地形は中央を走る脊梁山脈によって日本海側と太平洋側に分断されており、規模の小さな堆積平野が臨海部に点在している。日本の河川の多くは、短くて急流である（各社とも日本と諸外国の河川の延長・勾配に関する比較図を用いて説明）。

◇世界的視野からみると、日本の多くの地域は温帯に属し、梅雨や台風、冬の降雪などの影響もあって、年間の降水量は多い。

◇日本には地震、洪水、津波、高潮、土石流、火砕流、冷害、干害、雪崩など自然災害の発生しやすい地域が多く、各種の防災・減災対策（河川堤防、ダム、地下調節地、海岸堤防等の整備、避難場所や避難路の設置、災害の危険地域の指定、気象予報の高度化、地震・津波警報システムの整備、ハザードマップの作成など）を進めてきた。

中学社会科（地理的分野）教科書

# 中学地理教科書が教える国土の自然条件と防災・減災教育

## ダム整備に効果

教育出版は、日本の河川の特徴を「短くて急流である」と説明した後、「川は農業や工業、生活のために重要な水資源ですが、急流であるために雨水が短時間で海まで流れます。このため、ダムや堰を造って、水をためる工夫がなされています。ダムには洪水を防ぐ役割もありますが、下流まで土砂が流れず海岸が浸食されたり、生態系に悪い影響を与えるという問題も起きています」と、ダムの役割やダム整備による効果・影響を記述しています。

九州地方の地誌で東京書籍は、土砂くずれにより脱線した列車の復旧作業（鹿児島県指宿市2007年）▽全国の土砂災害発生件数（国土交通省資料）▽土砂や木の流出を防ぐ砂防ダム（熊本県美里町2007年）など、写真や図の資料を用いて、土砂災害問題とその対策について、中学生にもわかりやすく説明しています。

近畿地方の地誌で日本文教出版は「地図からわかる地域の歴史」というコラムを設けて、淀川と大和川の河川改修の歴史を紹介しています。

中部地方の地誌で帝国書院は「冬の積雪量が多い北陸の農業の特色は、稲作の占める割合がとても高いことです。北陸では春になると大量の雪がとけて、水を豊富に得ることができますが、昔は洪水がたびたび発生していました。現在はダムや堤防、放水路の整備を進めることで、豊かな水を有効に使えるようになり、全国でも有数の米の生産地になりました」と、治水事業や農業基盤整備による稲作の生産性向上を説明しています。

## 国土への働きかけ

私たち日本人は、イギリス、フランス、ドイツ、アメリカなどの国々とは大きく異なる、このきわめて厳しい条件を備えた国土に働きかけながら、安全で快適な生活環境を築いていかなければならないのです。（国土学アナリスト　森田康夫）

## 道の駅　点描

国道愛好家　松波成行

「この頃、都に流行るもの……」にとどまらず、世界で爆発的に流行っている「イングレス」という無料のモバイルゲーム。スマートフォンを使い、現実世界・地域で繰り広げる陣取りゲーム。神社や仏閣、路傍の石仏など、公共的な場にある「ポータル」と呼ばれる地点を巡り、デジタル地図上で「ポータル」をつなぎ合わせて陣地を囲います。ゲームの観点では囲碁やオセロに似た場の読みと、地図とコンパスでチェックポイントを巡るオリエンテーリングの要素を合わせもった新しいテクノロジーといえます。

イングレスが魅力的な一つは、地域のシンボリックな旧所や名跡だけでなく、日本の近代化の中で開発の陰に埋もれてしまった庚申塚や道祖神といった古（いにしえ）の「場」への導きがあることでしょう。地元でも「自分の知らない場」があると再認識させられたり、初めて訪れた土地では、有名ガイドには掲載されない地元の愛される「場」に触れることが多々あります。そのためか近年、岩手県や横須賀市の取り組みからイングレスは「地域振興」の観点でも注目されています。

「あなたの周りの世界は、見たままのものとは限らない」。イングレスのキャッチコピーですが、示唆に富んだメッセージです。道の駅の機能とする地域の「情報発信」や、「地域創生」の原点にも通じるのではないでしょうか。